

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナーその2

今年度の南が丘小学校の校内研究について紹介いたします。

「文章を読み取る力や語彙力の不足」、「読書活動の不足」「言語活動を通した『対話的学び』の充実」等の児童の課題を解決に向け、今年度、「国語科」の授業改善をテーマとした校内研究の充実を進めております。

研 究 主 題

「 見通しを持ち、粘り強く取り組む子の育成 」
～つけたたい力を明確にし、学び続けることを目指す国語科の授業づくり～

研究で目指す子どもの姿

- 粘り強く取り組み、自力解決の喜びが感じられる子ども。
- 相手のことを思いやり、共に考えを創り上げる子ども。
- 友だちや教師の考えを自分の思いや考えと結びつけ、理解できる子ども。

研 究 仮 説

国語科の時間において、意図的・計画的な他者との関わりの中で、新たな視点をもたせることで自らの学びを見通し、広げ、考えを深めることができる。

研 究 内 容

- ☆たば風プロジェクト①・・・児童の実態把握
 - ・5月と9月と2月に児童アンケートを実施し分析する。
 - ・C R Tの全校的な傾向をつかむ。
 - ・全国学力・学習状況調査の分析をする。
- ☆たば風プロジェクト②・・・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ・国語科の単元作り
 - ・学習評価の充実
- ☆たば風プロジェクト③・・・授業研究
 - ・仮説に基づいた授業研究
 - ・ブロックごとの話し合いと全体で行うミニ研修（板書交流会）
 - ・各学年1回の研究授業（初任者研修も兼ねる。）
 - ・連携校への授業のお知らせ
 - ・研究会で学んできたことの還元
 - ※研究会参加後は、参加報告として「研究部だより」を発行する。また、決められた保管場所に資料をまとめ有効活用を図る。
- ☆たば風プロジェクト④・・・研究の成果とまとめ
 - ・たば風通信の発行



外部講師を招いての研修の開催

5月21日（月）に北海道教育委員会檜山教育局義務教育指導班主査 三浦浩平様を招いての研修会を開催しました。

今回は、本校で行う提案授業の指導案の形式や今後の研究について、ご指導をいただきました。

- 指導案では、指導事項（求められる資質・能力）を確認し、言語活動例を設定すること。
- 単元を意識させたい言語活動を明記する
- 単元の指導計画に「主体的・対話的で深い学び」の位置づけ、つけたたい力を明確にする。（ピクトグラムの活用



三浦主査を招いての研修会の様子